

日本地衣学会

No.74

ニュースレター

Newsletter from the Japanese Society for Lichenology

目次	計報	263
	生駒先生の逝去を悼む／吉村 庸	263
	お知らせ	266
	第20回青空地衣教室『初級編』（箱根）のご案内／安斉唯夫・木下靖浩・	266

訃報 Obituary

生駒義篤先生の逝去を悼む

Obituary. Mr. Yoshiatsu Ikoma (1918-2007) / by Yoshimura I.



平成19年3月4日、本会名誉会員生駒義篤先生が逝去されました。私はこのとき旅行中で、帰宅した3月

15日にご子息の生駒義人様よりお知らせを受け初めてこの事実を知りました。ただただ呆然としているところです。

* * *

私が生駒先生と通信を始めたのは高校生のとき(昭和25年[1950年]ごろ)であり、当時生駒先生は鳥取東高校の先生(生物)をされていた。どのようなきっかけであったか記憶が定かではないが、広島大学の卒業生であり、高知に赴任されていた若手教員の延原肇先生や高知師範学校(高知大学教育学部)の山中二男先生から、地衣類を研究している生駒先生のお話をお聞きしたことがきっかけであったように思う。生駒先生はご自身で採集され朝比奈先生、佐藤正己先生の同定された地衣類標本を大変大事にされており、私が朝比奈先生に同定していただいた標本を所持していることを知ると、これらの標本の交換を提案され、何点が交換していただいた。

また、先生が自ら出版された次の書籍を贈与していた — 生駒義篤 (1957)『日本産葉状および灌木状地衣目録』(71pp., 鳥取(謄写印刷)自費出版)。一見して驚いた。この本は単なる目録ではなく、従来の日本の地衣類の研究を属や種別に文献を列記し、可能な限り、すでに発表された属内の種の検索表も併記してあった。戦前の地衣の研究のほとんどは朝比奈先生、佐藤正己先生が植物研究雑誌に発表された論文が主たるもので、まとまったものは無く、文献だけでも拾い出すのが大変であった。当時の私のような初心者にとっては便利この上ないものであった。

日本地衣類の目録作成は大変な作業であるが、戦前に Zahlbruckner (1920-1940)が全世界の地衣目録である『Catalogus Lichenum Universalis』(10 vols.)を発表しており、これを基にして、生駒先生も日本産地衣類目録の作成を始められた。これがようやく完成したころ、同じく佐藤正己先生も Zahlbruckner (1920-1940) を基にして、日本に産出の記録のあるものを抜き出して、佐藤(1943)『日本植物総目録 iv. 地衣類』(128pp., 東京科学博物館)を出版された。そんなわけで生駒先生の地衣目録は日の目をみる事が無かった。しかし、戦後になり、『葉状および灌木状地衣目録』で属、種類別の文献目録を兼ねた目録の出版で日の目をみたわけである。先生はこれに止まらず、その後も更にこつこつと内外の地衣文献を調べ、ついに『日本産地衣類目録』(667pp. 生駒義篤 2002, 鳥取, 自費出版)を出版するに至った。この目録は、日本における研究や記録を中心とする世界で発表された文献を、日本産地衣類の分類群ごとにまとめたもので、大変な労作である。私は随分とこの冊子に助けられ研究することが出来た。

* * *

先生のご父君の生駒義博さんは、仙台二高の安田篤先生に師事し地衣類の研究をされていた。このことは先生が地衣学に進まれたことと無縁ではない。やがて広島高

等師範学校に入学されると、同高師の犬丸愨教授を始めとして、朝比奈泰彦、佐藤正己両先生より地衣類研究のご指導を仰がれた。ご卒業後は旧制中学、高校の生物教師として生計を立て、側ら熱心に地衣類の研究を進められた。やがて喘息症状に悩まされ、この原因が地衣成分抽出時のアセトン使用が原因とわかり、成分研究、分類を中断されることになった。

しかし先生はもう一つの夢をお持ちだったのでないだろうか。中学生のころ先生は、篠遠喜人・向坂道路(1930)『大生物学者と生物学』を愛読されたそうである。また、徳田貞一(1936)『十一国無銭旅行記』(344 pp., 古今書院)にも大きな影響を受けたと思われる。博物に興味をもった中学生の生き様と好奇心多い冒険を描いた著書は当時の生駒少年を魅了して止まなかったことであろう。私も読み出すと止まらなくなり、一気に読了した。読後には深い感銘に浸った。中学生のバイタリティはすごい。生駒少年もきっとそう思ったに違いない。このすばらしい可能性を秘めた中学生を指導する教師としての喜び、使命感をもたれたように思う。果たして先生は一貫して高校の生物の先生としての道を歩まれることになった。

特に近年になって、地衣学の後進のために多大な貢献をされた。中でも上述の目録は最重要であるが、加えて『日本の地衣学文献集』(2001)の編纂や貴重文献の復刻を自費出版によって実現された。

* * *

地衣類の研究を志した時に、先ず突き当たる大きな壁は過去に発表された文献の入手と比較参照すべき標本の確保である。明治・大正の時代、外国人により、外国で出版された、日本の地衣についての著書や外国での学術雑誌に登載された論文を入手することは極めて困難である。私は何十年も経過して、なお、十分には収集できていない。昨今では複写機の普及で随分と簡単に複写ができるようになったものの、肝心の原本の所在がなかなかつかめず、殊に、国内のみでさがそうとしても不可

能に近い。

この点では生駒先生はたいへん恵まれていた。父君の生駒義博さんが地衣類の研究をされておられた関係から、古い文献も参考標本も所持されており、この意味では研究上、極めて優位な位置を占めておられた。いわば日本の地衣学草創時代より父子二代にわたり、地衣類の文献収集につとめられたわけである。

必要な文献の入手に随分と苦労した私は、これらの文献が先生のところで容易に複写でき、最初から入手できていたならという思いが強い。これから地衣類の研究に入ろうとする若い人たちにとって非常に貴重な遺産を生駒先生は残されたことになる。

これらの父子二代にわたる地衣関連文献は先生の長年にわたり収集された標本と共に、すべて、鳥取県立博物館に寄贈されておられる。標本に関してはすでに寄贈標本目録が鳥取県立博物館より発行されている。鳥取県立博物館（2000）『生駒義篤寄贈標本目録 地衣類、蘚苔類、淡水藻類』（鳥取県立博物館所蔵目録 46, 174pp.）。

この目録を見れば、いかに貴重な標本が収録されているかが、一目瞭然であり、先生のご努力により、資料が散逸することなく、我々後進の者は鳥取にまで足を運ぶことによって、実物を自由に拝見できるわけである。ありがたいことである。

蔵書目録は準備されていないが、重要な文献は先ず収録されていると考えて間違いないであろう。

* * *

かつて、朝比奈先生と雑談していたとき、先生が、牧野富太郎さんについてご感想を述べられた。「牧野先生の偉いところは、植物研究の楽しさを大衆のものにしたことである。」

確かに、牧野先生は自ら日本の植物を研究し、数多くの新種の記載を始め、日本の植物を明らかにしたことで万人に知られているが、一方では植物同好会を主催し、採集会、講演会を開催、植物関連の随筆、読み物など多彩な活動をされ、植物に接し観察、研究する喜びを従来の大学などの研究機関だけでなく一般庶民に広く啓蒙し、日本全国に同好の士を育成し、植物学の発展に尽くされている。もちろん、オリジナルな研究があつて初めて学問の発展があるのだが、このような啓蒙活動なくして更なる発展はありえない。当然このことは地衣類にもあてはまる。牧野先生とは違った形ではあるが、日本の地衣学界において生駒先生のなされた貢献は計り知れない。

生駒先生のご遺志にお応えして、先生の遺された資料を活用し、地衣学の発展に尽くすことが、先生のご好意にお応えする道であると信じる。

* * *

生駒義篤先生は大正7年10月23日、鳥取市に生まれ、平成19年3月4日、鳥取市で逝去された。地衣学会の会員の皆様と共に、先生のご逝去を悼み、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

（吉村 庸：服部植物研究所高知分室）

お知らせ News and Announcements

第20回 青空地衣教室『初級編』（箱根）のご案内

20th JSL Outdoor School on Lichens at Hakone, Kanagawa-ken (19 May 2007) / by Anzai T. & Kinoshita Y.

初心者向けの観察会を企画しました。参加を希望される方は、事前に安齊か木下までお申し込みください。

* * *

1. 日時： 2007年5月19日（土曜日），12：40～16：00

2. 場所： やすらぎの森（2003年2月2日の青空地衣教室開催場所と同じ）

3. 内容： ウメノキゴケ科のゴンゲンゴケの仲間がたくさん見られる箱根で、初心者向けの観察会を開催します。

4. 講師： 木下靖浩

5. 行程

12：40箱根登山バス「箱根町」バス停集合。「原色日本地衣植物図鑑」を抱えている人に声をかけてください。昼食を済ませて集合してください。

13：00「やすらぎの森」で山地の地衣類を観察します。

16：00頃 箱根町バス停で解散

6. 交通

・小田原駅東口の箱根登山バスのりば3番「元箱根・

箱根町行き」で所要時間約1時間。30分間隔で発車。

・伊豆箱根バスの場合、「元箱根・関所跡・箱根町線」で「関所跡」下車（箱根園行きは停車しません），伊豆箱根バス停から、進行方向に向かってさらに200m（箱根ホテルを越えて）歩く。料金はいずれも1150円。車で来られる方は箱根町バス停の西に無料駐車場がありますが、満車のこともありますのでご注意ください。

7. 持ち物： 雨具を忘れずに。できれば、10～20倍のルーペ、「校庭のコケ（全国農村教育協会発行 ¥1905）を用意されるといっそう楽しめます。

8. 参加費： 500円

9. 申し込み先

安齊唯夫 kozaiwa@jcom.home.ne.jp

木下靖浩 ponkichi@mtj.biglobe.ne.jp

10. 当日の緊急連絡先

安齊唯夫携帯電話0902-759-7872

木下靖浩携帯電話0901-264-9858

（安齊唯夫・木下靖浩：地域活性化委員会 関東）

●複写される方へ

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、許諾を受けてください。詳細は本誌62号222ページに。

●Notice about photocopying

In order to photocopy any work from this publication, you or your organization must obtain permission. For details, see No. 62, p. 222 of this publication.

●Newsletter from the Japanese Society for Lichenology, no. 74, pp. 263-266: ed. Harada H., published by the Japanese Society for Lichenology, 16 Apr. 2007.

日本地衣学会ニュースレター 74号

発行日：2007年 4月 16日

編集： 原田浩

発行者・発行所：日本地衣学会

〒010-0195 秋田市下新城野

秋田県立大学生物資源科学部生物生産科学科内

©2007 日本地衣学会 (© 2007 The Japanese Society for Lichenology)

本誌記事の著作権は日本地衣学会に属します。無断転載・無断複写等は固くお断りいたします。